

## 第6・7回 様々な人が働くカフェ訪問 | 社会参加

### (1) プログラム

□日 時：12月5日（土） 10：00～16：00

□会 場：江東区文化センター 5F 会議室

□内 容：

- ・人は誰もが、働いたり、学んだり、遊んだり、自分の人生を豊かにする権利があります。しかし、能力や効率性が重視される社会の中では、個人の能力の違い（医学モデル）だけを見て、最初からその可能性が制限されてしまうことがあります。
- ・可能性を制限しているのは「できない」と決めつけている制度やしきみ（社会モデル）にあるのかもしれませんが。
- ・様々な人が働くカフェ「ふれあい工房ゆめま～る」を訪問して、社会参加について考えます。

### 第6回タイムテーブル

10：00（05分）【開会】あいさつ

10：05（10分）本日の進め方

10：15（20分）お話 | 多様性、他の者との平等、社会モデル、合理的配慮

10：35（05分）グループ毎に自己紹介

10：40（60分）ゆめま～る訪問 （1・3・5G）

これまでの振り返り（2・4・6G）

11：40（60分）これまでの振り返り（1・3・5G）

ゆめま～る訪問 （2・4・6G）

12：40（60分）～休憩（昼休み）～

### 第7回タイムテーブル

13：40（20分）午前中のこれまでの振り返りの共有（3分×6G）

14：00（20分）お話 | 様々な立場の人の「社会参加・働く」

14：20（50分）グループワーク ゆめま～る訪問やお話を聞いたまとめ

15：10（05分）発表準備

15：15（40分）発表・全体の意見交換

15：55（05分）まとめ 事務連絡、アンケート記入

16：00 終了

## (2) 進め方

### ◆ふれあい工房ゆめま～る訪問

- ・「ふれあい工房ゆめま～る」を訪問し、利用者やスタッフの活動を映像でみたり、話を伺います。
- ・そこでの気づきをグループごとに模造紙にまとめ、全体で共有します。

### ◆これまでの気づきをもとに「ワークシート」をまとめる

- ・これまでのワークショップでの活動を思い出し、それぞれが印象に残ったエピソードを思い出し、次のようなワークシートにまとめます。

#### <気づきのワークシートのまとめ>

- ・これまでワークショップで体験し考えたことを、ワークシートを使って整理。

#### (1) 左側の欄 (個人の能力や特徴)

##### ①多様な人って誰のこと？

- ・印象に残ったエピソードは、あなたと、誰のエピソードでしたか。
- ・見えない人、聞こえない人、車いすを使っている人だけではなく、男女年齢、背の高さも違えば、地図が苦手な人、すばやく動ける人、ゆっくり移動する人等、様々でした。

まち歩きで、足が痛い人が遅れがちに先頭役をしたら、気を遣わずに一緒に歩けた				
①多様な人 あなた 速く歩ける人	②特徴 速く歩いても足が痛くならない	同じ目的 遅れている人はいないかと気を遣わずに、グループで一緒にまち歩きできた	③現状の状況 道を探しながら歩く、ついつい先に行ってしまう	④工夫 ゆっくり歩きたい人に先頭役をもらった
①多様な人 誰? 速く歩けない人	②特徴 足が痛くならない速度で歩きたい		後ろからついて行く、遅れがちなことある	

##### ②どんな特徴があるの？

- ・あなたとその人は、どんな違いがありましたか
- ・例えば、情報を得る時、移動する時、会話をする時、サインを探したり、買い物をする時も人それぞれで、その理由がありました。

#### (2) 右側の欄 (社会の状況や対応)

##### ③現実の状況は？

- ・実際のまちの中で、どんなふうに行動しましたか。(あるいはあきらめていましたか)
- ・ある人にはあたり前なことが、ある人には使いにくかったことがありませんでしたか。
- ・多数の人にとって不便がなくても、少数の人にとって不便なことを「少人数だからあたり前、ガマンすれば良い」と考えて楽しい活動ができましたか。

##### ④どんな工夫ができるの？

- ・グループの中で、あるいは、それぞれの個人が、どんな工夫をしましたか。
- ・こうすれば一緒に楽しめた方法がありましたか。

#### (3) 中央の欄 (目的は同じ)

- ・中央の欄は、「目的」です。何のために行動や活動をした(する)のでしょうか。
- ・食事を楽しむ、買い物をする、切子細工を鑑賞する、地域の名店に入る、人のために働く、など、ひとつの目的を書いてください。

### (3) ふれあい工房ゆめま～る訪問とお話

ゆめま～るは、カフェや手作りのパンや野菜等の販売をしているお店です。ここには、知的、精神、身体障害がある人が通って働いています。どのように働いているのか、映像で見たりお話を伺ったりしました。



また、内部疾患のある人の立場から「働くこと」について、重度障害者が修学旅行に行くお手伝いをしていた立場から「社会参加」について、お話をうかがいました。



## (4) 第6・7回意見のまとめ

### 1 これまでのワークショップの振り返り

#### 【1班】

No.	感想
①	亀戸の味噌ソムリエの説明は誰でも楽しみたいので、スマホやタブレットを活用すれば、視覚障害や聴覚障害でも同じように伝えられるということ。
②	ショッピングセンターや、まちの中のどこに広いトイレがあるか知っていると、安心してまちに出ることができること。
③	聴覚障害の有無にかかわらず、訪ねにくい人がいる（外見的印象による）。人によって違うこと。コロナのためマスクをしていると相手の表情がみえないので聴覚障害の人は会話がしにくいこと。
④	音響信号の音がわかりにくい（交差点でどっちが青なのかわかりにくい）場所があったこと。
⑤	車いすでどこの店に入れるのか、入店できる店を探すのが大変だったこと。入れるだけで感動する。

#### ■①味噌ソムリエの話を聞く

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
聞こえる人	説明を聞く	味噌の特徴を知りたい	口頭で説明する 味噌の説明書きを渡す	説明者の言葉をスマホやタブレットでその場で文字変換できる（現状スマホを使いこなしていない人が多い） 外国語表記や絵もあると良い
説明が聞こえない人 日本語がわからない外国人 知的障害がある人	□を読む 手話通訳を介す 日本語が読めない		味噌の説明書きを渡す 音の代わりに情報	

#### ■② 車いす対応トイレの場所を知る

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
電動車いすを使っている	広くて入りやすいトイレを使う まちのトイレ情報を良く知っている	トイレに入って用を足す	江東区のトイレ事情は大抵把握しており、行くことができる。外出にあたってあまり心配しなくて済む	地図にトイレ情報を載せる 情報を広く発信する 情報を理解する 人に聞く
車いすを使っている多くの人	広くて入りやすいトイレを使う まちのトイレ情報を知らない		使えるトイレを探すのが大変、外出時心配	

■③ マスクをしている人とコミュニケーションをとる

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
聞こえない人	目でみる 目や眉の動きを気にしている	相手が言葉を発しているかどうか気づいて、会話をする	マスクをしているので、そもそも発声しているのかが分からない。スーパーマーケットで「袋は要りますか?」と聞かれているのに、聞かれていること自体理解できていないので反応できない	絵に描く身ぶり表情を豊かにして補う 聞こえない人は表情を読むことに長けており（常に気をつけている）、眉の動きだけでも分かる時がある。 聞こえる人はかえって困るのでは
聞こえる人	耳と目を両方とも使う		普段両方使っている人が、マスクをしているので口元が見えないことで、意外にコミュニケーションの障害になっていることがある	

■④ 交差点を安全に渡る

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
見える人	目でみる	交差点を安全に渡る	信号機の青を確認して渡る	そばにいる人が青や安全、危険の情報を伝える
見えない人	音を聞く 回りの人の動きを感じる		音響信号で確認する。 車の音を聞く 音があまり頼りにならないことがあるので人の動きにあわせて判断するので青と勘違いして危ないことがある	

**【2班】**

■商店街にあった屋台についてお店の人に聞こうとした時、自然にグループメンバーがサポートしてくれた

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
聞こえない人	音の情報は得られない	「何だろう」と思った時に知りたい。	わからないままになってしまう	ひとつの方法では伝わらない時、身ぶり、表情、空書き、指さしを総合、わかるまで伝える
聞こえる人	音の情報が得られる	みんなと同じ量の情報を得たい共有したい	わかるまで伝える	

■高層タワーの話など、視覚的な話題で聴覚障害者もイメージを膨らませて楽しめた

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
視覚障害者	視覚的に楽しむことはできないが、言葉で楽しむことができる	体感する、小説のように楽しむ 楽しみ方は色々、言っちゃいけないという気遣	気づかい不要	自分が感じていることを言葉にする
目が見える人	視覚的に楽しむことができる	いはやめてほしい。みんなでも楽しむ	見た物を言葉にすることができる 「伝わらないかも」と思っ て言わなくなる、視覚的 話題を避ける	

■暗いバーに行きたかったが、駅から遠い、女性がいりづらそう、狭い、二軒目の店かな等の理由で行かなかった

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
バーに興味がある人	いろんなお店に行ってみたい	安全なバーもあり、消極的な印象を	いろんな人がいて、いろんなニーズがあることを知り、視野が広がった	このバーが本当に暗くて危険かは訪ねて
歩くのが苦手、女性子連れ車いす使用者等 バーに行くのは興味がない人	遠く歩くのはイヤ、暗くて危険な感じ、子どもに適さない、狭いと入れない	持っていた人も楽しめる可能性がある	駅から近い、明るい場所を選んだ	みないとわからない 確かめることが大事だ

■入れる行けるということが、使える通れるとは限らない

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
現場を歩ける人	どこでもだいたい動ける	普通に利用したい きめ細かい		車いすの人と一緒に行動したことで、普通に利用することをどうしたらいいかを話し合った
車いす使用者	狭い段差があるで、途中で行けなくなることもある	まちの表示が必要	入口が入れるなら、目的を達成して出られるように店や橋など、入れるに出られないところもある	

■ ショッピングセンター内スーパーマーケットは、レジに店員がいるが新システムで支払いと商品の受け取りをしなくてはならず、視覚障害者のみならず不便なシステム

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	
新システム初体験の人	これまでのシステムで会計をしようと思った	レジを使う、普通に買い物ができる	どうしていいかわからなかった	多様な人へ、その人に合わせた説明が必要
新システムが当たり前前の店員さん	わからないことがわからない		どんな人が来るかわからないかの心構えが無い人、説明の言葉が足りない人	



**【3班】**

No.	感想
①	車いすで通行する時、大通りより路地の方が、人通りが少ないので安心。
②	触って確認するという視覚障害者の方の感想に対し、普段自分ではやらない情報の取り方だったので印象的だった。
③	ショッピングセンターに飲食店は多かったが、車いすで入れない店も多かった。このときは健常者にテーブルやいすが動かせるかとか、入口や通路の間口を確認してもらった。
④	心臓の悪い人は最短で歩ける道を探しておくことに対し、自分自身が、足が悪い時に車いすマップが役に立ったので、車いす用の情報も車いすだけでなく役立つという気づきがあった。また状況に合わせて事前に調べられる方法が充実してきた。
⑤	エレベーターは車いすの方が利用して、健常者の方は階段を使用するというように最初から使うルートが、場所を問わず共通している。

■②触って確認する視覚障害者の情報の取り方が印象的

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫	
電動車いすユーザー	入口や通るところに一定の幅が必要 →いすやテーブルを動かせるか	①お店には入れる ②食事を楽しむ(自分で焼く、自分で選ぶ)	先にお店に行って同行者にチェックしてもらおう。 お店が混雑している と確認しづらい	Web 事前チェック⇒自分が口コミに書く、次の人の情報になる	
車いすを使わない人	大抵入れる		行ってその場で入る	人に教えてもらう。 ⇔コロナ禍で聞きづら い。店員さんが話さ なくなってしまった	自分で焼く時 スマホ撮影 ↑弱視以外もやる
	(弱視)注文方法(タッチパネル、回転寿司) 自分で調理するか、お店の人が調理するか				

■④心臓の悪い人は最短で歩ける道を探すことに関連した内容

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
心臓は悪くない、弱視	歩く距離は関係ない 夕方見えづらい 時がある	目的地へみんなと一緒に に行く	タブレット+Google マップで調べる 電信柱の住居表示+ 紙地図で調べる まちの案内板は、方角 が場所により異なる、 建物名が読めない等 ⇔弱視は地図を見な れている	事前に調べる (Web)
心臓が悪い	長距離歩けない			



**【4班】**

No.	感想	発展の議論
①	味噌汁ツアーでは、味覚嗅覚の共通の感覚があることも学んだ	「食べる」という話題は、例えば見える人／見えない人の両方に共通の話題と言える
②	聴覚障害者は後ろからくる自転車の音に気が付かない	聴覚障害者が一番後ろにならないよう配慮した
③	バス停の行き先標示が不十分であった	視覚障害者が道を分かっている場合は、例えば、番地標識を使って「その先の4番地を右で」と道案内が可能である（視覚障害者は「目を借りる」だけではなく「目を貸す」ことも可能）
④	高層タワーが見える場所を見えない人が見える人に教えて盛り上がった	例えば、電車のホームではスピーカーの向きを微妙に変え、取って聞こえ方が異なるようにしている（見える人が気付かない視覚障害者の「知」「気付き」がある）

■高層タワーが見える場所を見えない人が見える人に教えて盛り上がった

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
目の見えない人	音で判断することが多い	目的地に到着できる	道に迷っている→周りに人がいるのが音で分かる	人に道を聞く（声かけ、コミュニケーションを活用）
目の見える人	人に聞くことに抵抗がある		道に迷う→Google Mapで調べる（人に迷惑をかけたくない）	



**【5班】**

■セルフレジについて

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
セルフレジ利用しやすい人 ・聴覚障害者、外国人／人とのやりとりが苦手な人	人のやりとりが苦手	買い物の支払い	手間や人とのやりとりを減らしたい	レジは対人セルフを選べる →使用頻度上げる／慣れる →カゴに入れるだけのレジ
セルフレジ苦手な人 ・高齢者、機械が苦手な人	・使い方が分からない ・今までの方法を変えたくない ・違いが分かりにくい（視覚）		機会が苦手、機会の操作方法が分からない	→全部自分でやる、一部自分でやる →操作方法や違いが分かりにくい

■点字ブロックについて

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
点字ブロックが不要な人	車いす使用者ベビーカー →タイヤガタガタしたくない →点字ブロックがなくても歩ける人/目の見える人	安全に歩きたい	・点字ブロックを気にせず踏んでしまう、上に立ってしまう ・放置自転車 ・あると邪魔 →デザイン性を優先（コントラストを低くし、目立たない）	点字ブロックの必要性 ↓ ・色 ・どういう人が使うのか ・敷設方法 ※敷設だけでは不十分。音声、声かけも
点字ブロックが必要な人 ・中途失明者、弱視者（見て利用）	視覚障害者 →点字ブロックを頼りに歩く弱視者 →点字ブロックを見て利用 →点字ブロックが黄色（周囲とのコントラスト）が重要		・ないと歩きにくい ・危険な所を知りたい	★設置に外部者・当事者の意見を反映する仕組み ★必要性を広める ★必要な人とならない人がお互いを知る場

■声かけについて

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
声かけをしてほしい人 ・視覚障害者等	・耳が聞こえる ・情報少ない	声をかける方 ①気づき：困っているのではという発想 ↓ ②声かけ：何かお困りですか？と聞く ↓ ③アクション：気づいたことの実行 ※最終目的はアクション	声かけされるとより安心・安全にいられる	人により方法を変える ・肩をたたく ・筆談等
声かけの工夫をして欲しい人 ・聴覚障害者	・聞こえない ・人とふれあうのが苦手		・声かけされても分からない ・大きな声で話される（プライバシーの問題）	



**【6班】**

■文化センター敷地内道路の側に並行して池があり、危ないと感じる

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
見える人	歩道を安全に走れる	安全に目的地に向かい	池が見えるので安全確認できて歩ける	右側に池があることを教えた
見えない人	誰かと一緒に歩く	歩けた	介助者と一緒に歩く	

■聴覚障害者の方がはっきり話されたので、障害のあることを忘れてしまい、途中で気がついて面とむかって大きく口を開けて話すようにした

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
聞こえて話せる人	あちらを向いて話す	会話を楽しむ	小さな声で口元を見せずに話した	正面を向いて口の動きがはっきりわかるようにした
聞こえないけど話せる人	正面を向いてははっきり口を開けて話してもらわないとわからない		困ったような顔をしていた	

・聞こえない人があまりに流暢に話しているので、聞こえない人であることを忘れてしまい、途中で顔を見ながら話すのを忘れてしまって、ちょっと困っているような様子に気づき、改めてまた口の形などが見えやすいように話したというエピソードも出された。

■聴覚障害者がセルフのコーヒーを買うとき、店員さん呼びマシーンを指さして購入。意思疎通の難しさを感じた

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
聴覚障害がない	レジで伝える	コーヒーを購入する	レジで伝えて	店員を呼び、指さしで注文
聴覚障害の方	レジの前だと意思を伝えられない		レジの前だと意思を伝えられない	

・聴覚障害者がセルフのコーヒーを頼むときに、レジの人に声をかけて身振り手振りで伝えた。その時はすぐ店員さんがきてくれたが、混雑時はお願いしづらかったり、すぐに対応してもらえないことがある。

■飲食店のイスが動かせたので、車いす使用者も一緒に食事ができた

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
車いすを使わない人	備えつけのイスを使う	一緒に食事を楽しむ	どんなお店でも利用できる	車いすで利用できるお店か、事前に確認した
車いすを使う人	備えつけのイスが邪魔になる		入口が広くイスが動かせるお店だと利用できる	

## 2 ゆめま～る訪問後の感想

### 【1班】

#### ●障害の有無ではなく

- ・共生社会とは何かを考えた
- ・障害の有無とは関係なく、労働や教育（例えば修学旅行に行く）を好む人もいるが、好まない人もいる（当たり前のこと）を感じた。
- ・ゆめま～るに来ている人たちは働きたい人。

#### ●閉店したお店を作業所として活用する工夫

- ・空き店舗を利用して、作業所として活用するような取り組みがもっとできないか考えた。
- ・UDにかかわる作業所、事業所ができると良い。
- ・地域の交流の場になると良い（子ども食堂、困った人が来られる居場所など）
- ・ゆめま～るのような様々な人が交流できる居場所は必要（子どもから高齢者、外国人も）

#### ●事業そのものの魅力をPRできると良い

- ・ゆめま～るの、労働の喜びは素晴らしい。障害者の働き方については改善の余地がある（「利用者」ではなく「労働者」になれるように）
- ・普通の店としての価値がある。障害者だからということではなく、質の話（素晴らしい天然酵母のパン）をもっとPRしても良い。

#### ●コロナが治まったら行きたい場所

- ・ふれあい工房ランチを食べたかった。
- ・車いすを使っているの、ゆめま～るなら確実にヘルプが得られる安心感がある。

#### ●仕事にどう慣れていくのか

- ・仕事にどう慣れていくのかを知りたい。

#### ●ヘルプマークについて

- ・ヘルプマークは良いものだとはばかり思っていたが、人によっては障害をカミングアウトすることだということを初めて知って衝撃。
- ・ヘルプマークをつけている意図（障害があること）を知っている人が少ない。
- ・「見た目が平気そうなのにヘルプマークをつけている」と（理解ない）ことを言う人もいる
- ・ヘルプマークの有無ではなく、たとえば高齢者に自然に優先席に誘導出来ると良い（韓国では日本より高齢者に対する対応が良い）
- ・日本では宗教的（あるいは道徳的）に自由になりすぎて何が良いことが迷っているようだ。

- ・上の世代がUDの考え方を身に付けていない。
- ・ヘルプマークの逆、私はサポートできるマークがあっても良い。
- ・自然に身体が動く（席をゆずる）をしたい。

### 【2班】

#### ●働くのは楽しい！感想にオドロいた

- ・働くのが一番楽しいという感想は素晴らしい。
- ・障害者が仕事をもって楽しくしている。

#### ●夢、感謝がある

- ・夢を持つこと、感謝することの大切さ。  
→なぜゆめま～るは、目標があるの？
- ・今できないことがある時、どうしたらできるかを考える。

#### ●どんな人がいるかを知ろうとする

- ・情報共有や情報取得が大切。
- ・ゆめま～るの収益になるなら買ってみよう！
- ・レジがゆっくりでも確実にやっている。スタッフが見守ってほしいのがいい。

#### ●支え合い、助け合いが大切

- ・仕事の役割がはっきりしている。先輩がめんどうを見ている。支え合いが大切。助け合うことは「当たり前」になることが目標。
- ・先輩スタッフと後輩スタッフが支えあう。相談してサポートしている。手を出すのではなく、障害者を主として支えることが大切。

#### ●色々な方法があることが大事

- ・できないことを認めるにはどうしたらいいか。たまたま今ある1つの方法でやってみただけ。別方法でアプローチ、チャレンジすればいい。
- ・役所は1つの方法でしか提示していない。色々な方法がある！これが大事！
- ・目標を達成することで、働くことが楽しいと思えるのではないか。
- ・先輩後輩で支えあう中で、失敗したことに気がつき深く考え納得する。この積み重ね。

#### ●良かれと思ったのに、、、

- ・理解を深めるために良かれと思ったヘルプマークもBFでしかない、UDから遠ざかっている。
- ・優先席もUDではない、フツ一の席でゆづりあいできれば特殊席は不要。

**【3班】**

- ・主なポイントは3点。1つ目はゆめま～るの動画を見て、ゆめま～るで働いていることが楽しいことが印象的。その背景は、日々のミーティングでそれぞれの方がやりたいことを分担して行えていること。
- ・2つ目は、本人の意見ではなく先生や両親の意見が尊重されてしまう。本人の意思が尊重されるようにするべき。
- ・内部障害等、見えない障害の人が優先席に座ることで精神的な不安がある。多様な人がいることの理解が大事。でも次のステップはどうすればいいのか結論が出なかった。ヘルプマークが席を譲ってマークになってしまっている。ヘルプマークは席を譲って欲しくて使っているわけではないという話もあった。

**■ゆめま～るについて**

No.	感想
①	ゆめま～るで働く障害者が印象的だった。 働くことが楽しいと思えることが良いと思った。 自分でやりたいことが決められるのが働くことが楽しいと思えるポイント。 ゆめま～るの動画を見て、同じ仕事を願うするのではなく、日ごとに分担を変えたり等、自分のやりたいことを尊重してあげること。
②	仕事が楽しいと言っていたが、日本は「仕事が楽しい」と思って働くことを良しとしていないのではないかと。苦勞してこそ仕事という固定観念がある気がする。
③	一般就職したいけれど、採用時にふるいにかけられてしまうのではないかと。本来であれば、一般企業でも働けるのではないかと？
④	完全を求める社会に問題がある。「制約社員」という言葉にあるように、障害や病気、介護、育児など制約があるとは正社員として働けない現状がある。 自力で通勤できることが前提になってしまう。
参考	区役所からゆめま～るへ行く歩道が歩きにくいと感じた。 歩道の下にある遊歩道や水路との関係があって、傾斜がきつくなっているようだ。

**■障害者・高齢者様の旅行ツアーについて**

No.	感想
⑤	東京ディズニーランドやディズニーシーは定番で、無難な行き先だと感じた。 ミッキーマウスが好きならいいけれど。みんなが楽しめるわけではなさそうだ。
⑥	齋藤さんの話で、私もヘルパーをしていてご本人の意見ではなく、ご両親の意見を参考にしているので、共感しました。 ご本人が楽しめるく両親や先生の思い（安全安心に過ごせる）となっている。
⑦	本人の意思を尊重することは、とても深く大切だけれど、本人の意思がわからない限りまとめられない。
⑧	障害者がお金を払って楽しめる旅行が少ないと思いき、旅行業務取扱管理者資格を取った。

■難病・内部障害・ヘルプマーク（大場さんのお話）について

No.	感想
⑨	障害のある人は、日々周りの目を気にして生活している。 健常者の人は多様な人々が生活し、どんな事情を抱えているかもっと知るべき。
⑩	大場さんの話で、内部障害があまり認知されていない(知らなかったことが)多かった。
⑪	ヘルプマークは、弱視の人にはあまり意味がない。多くの人が「席を譲ってマーク」だと認識している。マークが目立たないこともあるが、ヘルプマークをつけても、居心地が悪くモヤモヤする。 ヘルプマークは障害のカミングアウトにつながる。
⑫	優先席に座るのは誰が決めるのか。海外には優先席というシステムがなく、日本の端という話も聞いたことがある。 優先席そのものが面倒くさい。どうしても優先席があると「どうせだったら優先席に座ってよ」と思ってしまうところもある。
⑬	見えない障害という言葉。人の心の差別を感じた。私の場合、ぜんそくで咳が出やすくこの時勢ワークショップに参加するのも遠慮していた。

●①働くことが楽しいと思えること

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
制約社員(働き方に一定の制約がある)ではない人	障害がない ただし生活、家庭など自分の環境による	楽しく働く	楽しく働けている	今はギャップはないけれど、一般就職となるとギャップが出る可能性がある。
働きたいけれど働く場所が限られている人	障害がある 毎日行かなくても良い？ 環境による		楽しく働けているが、賃金が安い。 勤務先を選択できない。	⇒障害の特性に合わせてできる仕事を事業者が見つけれられると良い。

●⑩内部障害について知らなかった

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
見える障害者(車いす使用者)	障害の度合いによって不安定になる	人それぞれ何らか	障害を我慢せずに生活する	我慢している
内部障害のある人	働くことに支障 →体調不安定、周囲の配慮が必要	制約がある	手当が少ない→指定難病にならないと手当ない、範囲狭い 手帳等級が低いと支援が不十分、差別を避けるために手帳を取らない人もいる	多様な人がいることを知る ⇒次のステップはどうすれば良い？ 総論は良いけれど、人々の寛容さをどう生み出すか??

**【4班】**

■ゆめま〜るについて

No.	感想	発展の議論
①	賃金の面(時給100円)、一般企業への就職(大体2年に一人の割合で一般就職している)等の厳しい現実を再認識した。	ゆめま〜るの様な組織(店舗・工場)を社会がもっと支援するシステムがあるのでは・・・。
②	厳しい現実の中でも夢と希望をもって働いている事に感動し、見習わないといけないと思った。 また、ゆめま〜るの「利用者さん」のゆりかごから墓場までが気になった。	「利用者」という言い方が気になった。(厳しい言い方になるが) ゆめま〜るは作業所であり、障害者が働いているというよりは、訓練を受けている、もしくはデイサービスを受けている状態ではないか(障害者は給料をもらってはいるが、障害者の親が給料以上のお金を払っているケースもあり)。

■障害者・高齢者様の旅行ツアー(齊藤さんのお話)について

No.	感想	発展の議論
③	障害のあるなしで旅行の楽しみ方が変わってしまうのはもったいないと感じたので、修学旅行も障害のあるなし関係なく楽しめる世界になればいいと思った。	「パーフェクトワールド」という車いす使用の主人公のドラマがあったが、メディアを活用した障害者の権利啓発活動も有効ではないか。また、デザインを担う設計者こそUDの知識をもっと持つべきではないか。

■難病・内部障害・ヘルプマーク(大場さんのお話)について

No.	感想	発展の議論
④	ヘルプマークの存在を知ってから電車等で見かけることが増え、認知度が上がっていけば、もっと暮らしやすいまちになると思った。	ヘルプマークなしで周りが配慮できる社会にまだなっていないのではないか。(例えば、横浜の地下鉄で全席優先席とする試みを行なったが、席のゆずり合いが減り、不満の声があがったため、再び優先席を設定した。) 白杖や車いすは、持ちたくない使用したくないという選択肢がない。

●②のゆめま〜るについて

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
ワークショップ参加者	ゆめま〜るに直接関わっていない	ゆめま〜るが「働く場所」になること	ゆめま〜るを知らない	美味しいパンやお菓子を作る(そのためのノウハウを教える、ベンチャーと組む) 売る場所を増やす 宣伝・広報 優先する法律を作る
ゆめま〜るの利用者さん	身体、知的、精神に障害がある		賃金が安い	



## 【5班】

### ●働くこと、社会参加

- ・ ゆめま～る見学で、利用者が自発的に働いている様子から、福祉施設で働くことに、明るいイメージを持った、イメージが変わったという意見が出た。
- ・ 「内部障害であるため早く歩けない」という障害を伝えたところ、「必要な配慮を先に提示してもらえるのはありがたい」という意見があった。内部障害等の外見から障害が分かりにくい場合は、カミングアウトをしたり、必要な配慮を情報発信することで、周囲が尊重し対応しやすくなる。
- ・ ゆめま～るは、身体・知的・精神の多様な障害者が集まる。多様であることは、衝突を生むこともある。衝突がない、予定調和で進むことが必ずしも良いことではない。多様な人がいる中でどう付き合っていくか（距離をとる、アプローチを変える等）、先ずはお互いの理解が必要になる。
- ・ ゆめま～るの職員と利用者の接し方について、本人のやる気を育て伸ばすこと、当事者の可能性を広げること、そうしたプラスの視点に着目することが重要という意見が出た。

### ●障害とは何か？

- ・ 障害とは言わなくても、性格的に〇〇（例：執着心、集中力等）の傾向が強いということは、障害とどうつながるのかという話が出た。障害を制度上の区分ではなく、ニーズや特性、価値観や好き嫌いも含めて、個性やパーソナルなものの特徴の1つとして理解されるといいのではないか。
- ・ 多数派を前提とした社会や社会常識が強制される中、少数派（障害者）が使えず諦めるという現状がある。障害者が利用できないことによる諦めが、障害者を生む。人がいれば利用できたとしても、特別な配慮が必要ならばその特別化により自分は障害者だという意識付けを行っていくこともある。
- ・ ヘルプマークはある面でレッテル貼りになる。聴覚障害者の中には、耳マークではなくヘルプマークをつける人もいる。女性の聴覚障害者が

防犯上、聴覚障害であることを知られたくない、でも何らかの配慮が必要なことを知らせたい人等がそういう選択をしている。身体的な特徴を示したり支援を求めるのではなく、何らかの支援が必要だというマークならば良いのではないかという意見もあった。

- ・ 優先席は日本特有のものではないかという疑問も出された。以前、川内先生から外国はバリアフルだが人の手によってバリアを乗り越えているという話を聞いたという紹介があった。日本人は、自分のできることを当たり前にする風潮がないのか。優先席や譲り合いのアナウンスがないと日本人は席を譲れない。そのため、人の目や周囲が気になるということにつながっていく。
- ・ 障害があっても誰でもが、自分ができることをやる事が重要。そのために、自分のことを理解し、自分はこれができるということをオープンにする。さりげなく、May I help you? と聞けること、自分の障害や配慮を自然に言えること。そういう相互理解と配慮があることが重要だ。
- ・ 障害や制度の有無ではなく、一人一人に対し人間としてきちんと向き合い、付き合っていくことがUDにつながるのではないかという話になった。

【6班】

●障害者の旅行には大変な協力が必要かと思いました

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
		楽しく旅行	1泊2日1万	家族以外での旅行は？ - お金、プロの旅行社は知られていない
車いす使用 吸入吸引必要	目だけ動かす ケガが常に必要		5人セットで旅行、入浴3人介助、夜中に吸引、できることは自分で	- ALSの団体本人が家族を求めると本人に覚悟

- ・具体的に車いすで旅行するのにどのような支援があれば旅行できるのかを教えてくださいました。
- ・車いす使用者なので、移動の時には車いすのリフト付きの車を使って、食事の介助はできるところは自分で、お風呂は家族などの介助で行うとのことだった。

ゆめま〜るに働いている人が一般就職がゆめであると話していたのが印象的

ゆめま〜るの賃金が安すぎると思う。賃上げの問題

多様な人	特徴	同じ目的	現実の状況	工夫
		就労		- 就労支援員（行政） - 就職サイト情報、マッチングが重要
ゆめま〜るの利用者			一般就職が難しい、時給100円、コロナで1/10	- 障害にあった仕事が見つかるか - 企業側の鞭、意識&理解向上 - 自分で探せない人々に代わり探す人+ジョブコーチ